令和７年１２月号

# ノア Smile

春日部セントノア病院
〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野１１１２-１
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp

～目次～

●病院短信　瓦井　洋
●日常の一コマ　渡辺　好子
●いきいき看護・介護　小島　敬子
●ＰＳＷだより　渡邊　正基
●秋祭り　院庭にて
●スタッフ紹介　山崎　陽子

## １２月の予定

◇誕生日会
　１病棟　１２月　８日（月）
　２病棟　１２月　９日（火）
　３病棟　１２月１２日（金）
　　各病棟デイルーム　１４：００～
◇キャンドルサービス
　　全病棟　１２月２５日（木）
◇西川潤子さんピアノコンサート
　　１２月１３日（土）　１４：００～
　　１・２病棟デイルーム



## 2025/11/03 秋祭り スナップ写真集

## スタッフ紹介

２病棟　介護福祉士
山崎（やまざき）　陽子（ようこ）

趣味：推し活・ドラマ・映画鑑賞

この業界に入り、早 22 年が経ち、いつの間にかよく言えばベテラン、悪く言えばお局と呼ばれる域に来てしまった今日この頃です。これからも患者さんを支えていける様、精進していきたいと思います。

# 病院短信

## 事務屋の独り言

セントノア病院　創立者　瓦井　洋

### 『認知症の専門病院として（その一）』

平成十四年、今から二十三年前になりますか、私は認知症の専門病院として川越に『川越セントノア病院』を、そしてその三年後に春日部に『春日部セントノア病院』を創りました。

この認知症という病気、皆さんも既にご存知でしょうが残念なことに現在の医療では治すことが出来ません。本来、病院と言うものは病気になった人や怪我をした人を治療し治すための施設です。それなのに何故、私がこの治らない認知症の専門病院を創ったのか、と不思議に思われるかもしれませんね。かなり勝手な手前ミソになりますが、その動機などを『独り言』で呟きます。

昭和から平成になった頃、私は千葉県のある病院の再建に関わっていました。その病院は救急外来もあるごく普通の病院でしたが、高齢化の波はその病院にも押し寄せ、入院患者（１６０床）の約半分は高齢者、すなわち簡単に言えば半分の病棟が『老人病棟』となっていました。つまり、いろいろな病気（ほぼ慢性疾患に近い）を抱え、体力的にも衰えて必然的に点滴をしている患者さん達も多く、当然のように入院も長くなる病棟なのです。そんな病棟に認知症と思われる、どちらかと言えば精神科に近い患者さんが入院をしてきたのです。看護師たちは、言う事を聞かない患者さんを前にどう対応していいのか分からず、右往左往です。つまり一人の手の掛る認知症患者の為に、かなりの看護師が影響を受けて、他の患者の対応がどうしても手薄になってしまうのです。そこで看護部長は、その患者を即退院させてほしい、と私に直談判に来ました。その時は私も仕方なく許可をしました。ところがその翌日の午後、看護部長がその患者さんの娘さん（４０代後半）を連れて私の部屋にやって来たのです。そしてその娘さんは、私の部屋に入るなり、いきなり泣きながら土下座をしたのです。そして私に「他の病院はもちろん施設もいくつか当たりましたが全て断われ、この病院を出されたら行くところがない」と泣かれました。私は直ぐにその娘さんの手を取り、椅子に座らせ、「うちの病院でも入所させてくれる施設や入院をさせてくれる病院を一緒に探しましょう。そして転院先が見つかるまではこの病院でお預かりしますので」と言ってなだめました。

そして、その日の午後、看護部の職員全員を集めて「今までの看護・介護はそのままでいいが、改めて認知症患者の特性を把握した上で、カンファレンスを行い、新しい看護・介護を看護師としての原点に戻って探っていこうじゃないか」と激を飛ばし、その前例として何人かの認知症患者を受け入れました。しかしそうはいっても看護部長のキツイ要望は収まらず、認知症の患者は、とりあえず一部屋（四人部屋）だけという結果でした。これが私が初めて『認知症の入院患者』に接した日となったのです。

（次回に続く）

## いきいき看護・介護

2病棟　看護師　小島　敬子

### 『ふくらはぎマッサージで ぽかぽか健康に』

朝晩の冷え込みが強くなり、足先の冷えやむくみを感じやすい季節になりました。ふくらはぎは「第二の心臓」と言われ、優しくマッサージすることで全身の血流を助けてくれます。

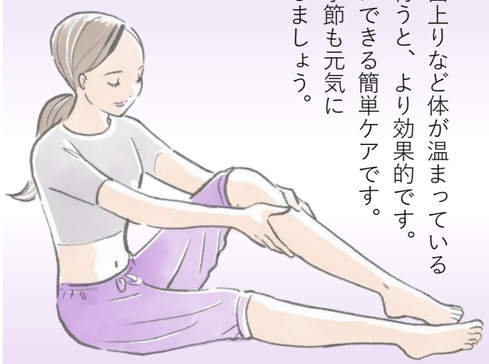
「簡単マッサージの方法」

①足首からひざに向かって、手のひらでゆっくりさすります（5～10回）

②両手でふくらはぎを包み、軽くもみほぐします

③最後に足首をくるくる回して仕上げましょう

お風呂上りなど体が温まっている時に行うと、より効果的です。気軽にできる簡単ケアです。寒い季節も元気に過ごしましょう。





# 日常の一コマ

今月は２病棟の智鶴子さんを紹介します。

智鶴子さんは神奈川県川崎市でお生まれになりました。美容系の専門学校を卒業後、結婚されるまで美容師として働き、３人のお子さんを育てられました。育児が一段落した後は電気系の会社に再就職し定年まで働き、その後もパートに出るなど毎日忙しい日々を過ごしていました。その頃から徐々に物忘れが出始め、怒りっぽくなったり、徘徊の症状が見られるようになってしまい、近医にてアルツハイマー型認知症と診断されました。それからは旦那様の介護のもと自宅で過ごされていました。

令和６年、自宅で痙攣発作が起き、救急病院へ搬送され入院しました。入院中には認知症が急速に進行してしまい、精神科の治療が必要との事で当院に転院されました。

入院当初の智鶴子さんは暴言、暴力がみられ、排泄介助時も大声を出したり、ベッドから車イスへの移乗時も介護抵抗が強く、スタッフ２人で行っていました。また、３食の食事も摂取することが出来ず、高カロリー栄養食品を飲まれていました。そのような智鶴子さんに対して薬剤の調整と共に、優しく声かけ寄り添い、智鶴子さんに合わせて介護していくうちに、時間はかかりましたが落ちつきが見られるようになり、今では「智鶴子さん、起きましょうか？」の声かけに、「ごめんね、ありがとう」と言いながら起き上がり、軽介助で車イスに移ってくださるようになりました。また、食事も今では昼食だけですが普通食を召し上がれるようになりました。

そして智鶴子さんの一番の楽しみは旦那様の週２回の定期的な面会です。面会中の様子を覗いて見ると、病棟では見たことのないとても嬉しそうな表情で、優しい旦那様と向き合ってお話しされている智鶴子さんがいます。入院時には想像もできなかった姿であり、本当に嬉しく思います。智鶴子さんの穏やかな生活がずっと続きますように、優しい旦那様のご協力を得て、少しでもお力になれるよう、これからもお手伝いさせていただきたいと思います。

２病棟　看護師　渡辺　好子

## ＰＳＷ だより

精神保健福祉士　渡邊　正基

短い秋が終わり、冷たくなった風が冬の到来を感じさせます。

空気が乾燥すると猛威を振るうのがインフルエンザです。巷では既に流行しており、私の子供が通う小学校でもいくつかの学年が学級閉鎖に追い込まれています。皆さまも手洗い・うがいを徹底し、体調管理にはお気をつけください。

さて、話は変わりますが、11月３日に当院恒例の秋祭りが開催されました。

木枯らし１号の影響であいにくの天候でしたが、お祭りの雰囲気は十分に感じていただけたと思います。秋祭りは開院当初から行っている一大行事です。この日のために、患者さんと職員は一丸となって出し物の練習をしていたのですが、意地の悪い風のせいで披露することができず残念です。せめて一矢報いるために披露したソーラン節では、皆さまの暖かい声援と手拍子のおかげで盛り上がることができました。ありがとうございました。

（私は見事に振付を間違えました）

気が早い話ですが、来年の秋祭りは今年の分まで盛り上げるために頑張ろうと思います。

ぜひ、来年の秋祭りにもお越しください。完全版をお届けします。